

【生駒】いこま国際音楽祭 見直しへ 観客減で 企画公募含め検討

毎日新聞 2015年12月10日 奈良版

生駒市は9日の市議会で、2010年から毎年度開いてきた「いこま国際音楽祭」(実行委員会主催)の事業を見直す方針を明らかにした。観客数の減少が大きな理由で、市は音楽イベントの企画公募を含めて検討している。

国際音楽祭は海外のクラシック演奏家らを招いて10年の平城遷都1300年祭の協賛事業として始まり、6回目が先月開かれた。ピアニストの韓伽= (ハンカヤ)さんが初回から音楽監督を務め、三つのコンサート、演奏家が小学校を訪問する「音楽塾」、公開レッスンの「マスタークラス」で構成されている。

市によると、公演の観客数は12年の1945人をピークに減り、今回は約1100人。また、市の今年のモニターアンケート(回答者169人)では、音楽祭の存在を7割以上が知っていたが、87%が「参加したことがない」と答えたという。

音楽祭の運営費約1000万円のうち、市が500万円を上限に毎年補助。昨年度の補助額は435万円だった。

【熊谷仁志】